

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h3>1 一人一人の児童生徒の尊重</h3> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<h3>2 友達への思いやり</h3> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h3>3 道徳・心の教育の充実</h3> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】○今年度もコロナ禍での感染防止対策を講じながらの学校生活であるが、今年度も児童の気持ちに寄り添った対応を心がけてきた。一人一人の児童生徒の尊重に関しては、児童の92%が「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」と回答しており、前年度より+2ポイントとなり、児童との距離が縮まっているように見られる。○友だちとなかよくできていると回答(「4」「3」)した児童も94%となっており、前年度より+6ポイントとなっている。9月に分散登校、オンライン授業等の期間もあり、クラスでの交流の時間が十分に取れなかったが、より一層人間関係を意識している傾向があると考えられる。「4 そう思う」の回答に関しては、昨年度同様、教職員との差が大きい。○道徳が教科化され、「考え、議論する」授業実践を行ってきている。その結果、児童も問題を自分事として捉えることができるようになってきている。また、昨年度から力を入れている読書活動も児童の豊かな人間性を育むことに繋がってきている。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<h3>4 意欲的な学習態度</h3> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h3>5 授業力向上</h3> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h3>6 タブレット活用</h3> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>【学校から】○新年度から通常授業でのスタートとなり、9月に分散登校、オンライン授業等があったが、児童に大きな負担がかからないような計画を立て、授業を行ってきた。授業形態にも工夫、配慮が必要となったが、タブレットを活用した意見の集約や比較をするなどの工夫を行うことで対応してきた。その成果もあり、意欲的な学習態度に関しては、92%の児童が「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」という回答をしており、前年度とほぼ変わらない。○教師も電子黒板やタブレットの活用に慣れ、活用の幅を広げている。ICTを活用したわかりやすい授業づくりに関しては、90%の児童が「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」と回答しており、前年度とほぼ変わっており、その成果が表れている。図書館教育の研究発表において、児童の主體的な授業参加、教師のタブレットの効果的な活用により、児童が「学びとる」授業への意識転換へ移行してきている。授業力向上が学力の向上に繋がっている。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<h3>7 健康づくり</h3> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<h3>8 児童生徒理解</h3> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p>	
<p>【学校から】昨年度から児童の運動の機会が減少し、生活リズムの乱れも生じた。その中で、児童は85%、保護者は82%、教職員は70%「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」と回答しているが、「4」に関しては児童・保護者と教職員の差が大きい。今後も家庭と連携しながら児童の健康づくり(特に早寝・早起き)に取り組んでいく。</p> <p>【学校から】昨年度からコロナ禍における学校生活にさまざまな制限があるが、その中で、児童は88%、保護者は82%、教職員は96%「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」と回答している。「4 そう思う」に関しては児童・保護者と教職員の差があるが、今後も家庭と連携しながら一人一人の児童に寄り添い、適切な支援に取り組んでいく。</p>		

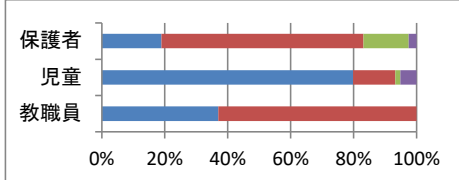
④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<h3>9 いじめや問題への対応</h3> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<h3>10 学校の支援体制</h3> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<h3>11 共生社会を担う人材の育成</h3> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>
<p>【学校から】○児童理解に関しては、93%の児童が、「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」と回答しており、前年度とほぼ変わらない結果となっている。感染防止対策を講じながらの教育活動で、教師が一人一人の児童をしっかりと見つけ、認めていくという意識を持って対応しているが、「2 どちらかといえばそう思わない」「1 そう思わない」の回答が保護者に約22%存在するという点を謙虚に受け止め、更に一人一人に丁寧な対応をしなければならない。○いじめや問題への対応に関しては、迅速にかつ複数で対応するようにしている。事実確認をしっかりと行い、児童が納得するまで話し合うとともに、保護者にも連絡し、同じ目線で考えていくようにする。○特に支援が必要な児童に関しては、校内委員会等を定期的に実施し、共通理解の下、当該児童への支援を行っている。支援が必要な児童を含め、全児童を大切にするという意識をもって教育を進めているが、約20%の保護者は不十分であると評価している。通信や懇談会、教育相談などを活用し、子どもたちの様子を伝えながら、保護者との連携をさらに深めていくことができるよう努めていく。</p>		

①子どもたちの身近な安全対策の充実

12 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

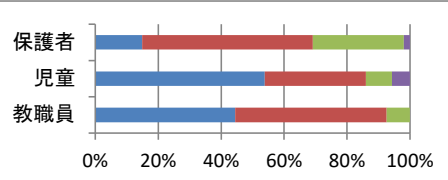


【学校から】今年度も感染防止対策を講じながら、全職員で共通理解、共通実践を図るとともに、児童への指導、家庭への協力依頼を行ってきた。マスク着用や手洗いの励行等、児童の意識も高まってきている。防犯・交通安全に関しては、地域の協力が事故抑止力になっている。

②最適な学習環境の整備

13 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

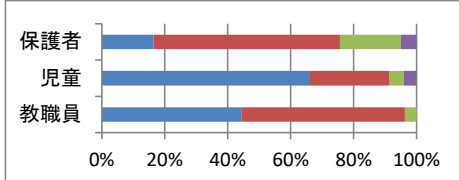


【学校から】校舎も老朽化してきており、毎月の施設安全点検を入念に行うとともに、不備がある場合は担当者、学校主事を中心に迅速に修繕等の対応を行っている。校庭には腐朽している樹木も多く、伐採を行った。

③家庭・地域社会との連携強化

14 教育方針・目標の理解

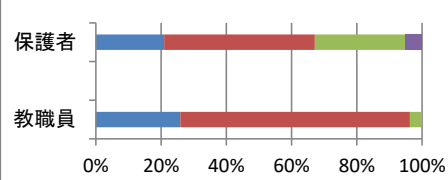
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



【学校から】○今年度は軒先での家庭訪問、オンラインによるPTA総会、感染対策のため、人数制限による授業参観や学級懇談会を実施したが、直接保護者に対して学校や学年・学級の教育方針を説明する機会は不十分であったが、76%の保護者が「4そう思う」「3どちらかといえばそう思う」と回答している。学校安心メールやHPを活用した学校だよりの配布や学年・学級通信等で、今後は、タブレットを活用した保護者への連絡も考えていく。○地域の方々との交流はほぼできなかったが、あいさつ運動や交通指導、防犯パトロール等は例年通り実施できたことは、安全・安心な校区づくりに繋がった。また今年度は学校安全対策協議会を実施し、関係者と校区の安全意識について高めることができた。

15 家庭や地域との連携協力

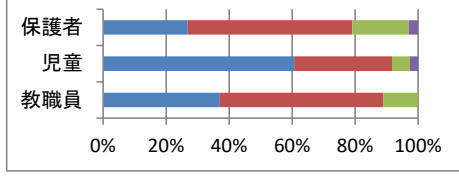
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



④本校の教育

16 「あ・そ・う・だ」運動の積極的な展開と強化

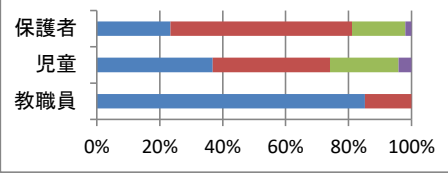
子どもに「あ・そ・う・だ」運動は定着していると思いますか。（あいさつ・そうじ・だれとでも仲よく）



【学校から】○生活委員会をはじめ、各委員会の取り組みもあり、「あそうだ」運動に関しては、92%の児童が「4」「3」と回答しており、その定着が見られる。（60%の児童は「4」と回答している。）今後も児童のアイデアを生かした活動を広げていく。○本市の学力充実モデル校の指定を受け、昨年度から図書館教育を研究テーマとして取り組み、読書環境の整備、魅力ある読書活動の推進を視点に取り組んでいるが、読書の習慣化については、まだ、25%弱の児童が「2」「1」と回答している。更に、魅力ある読書活動に取り組むとともに、各家庭にも呼びかけ、読書に親しむ機会の拡充を図っていく。○本校の課題の一つとして遅刻の解消が挙げられる。この課題解決に向けては、家庭の協力も必要であるが、まだ保護者、児童と教職員の意識の差が大きい。この差を埋めるべく、家庭と連携して遅刻児童や不登校児童数の減少に向けて取り組んでいく。

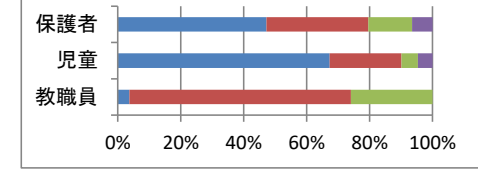
17 読書の習慣化

学校は、読書の習慣化に取り組んでいると思いますか。



18 早寝・早起き・朝ごはん、遅刻解消の取り組みの強化

子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践でき、遅刻せずに登校することができていると思いますか。



来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標や経営方針については、引き継ぎ、学校だよりや学年・学級だより、HP等を通して情報発信を行う。保護者や地域と連携しながら「礼・学・体」の調和のとれた児童の育成を目指す。
○新型コロナウイルス感染症対策のため、教室の換気やマスクの着用、手洗いの励行、施設の消毒等を継続して行うとともに、予防についての児童のさらに意識向上を図っていく。また、感染症に関する不当な偏見や差別、いじめなどの人権侵害を発生を防ぐために、発達段階を踏まえた指導を継続していく。
○コロナ禍で先行き不透明な時期であり、児童の心も不安定になりがちである。児童にしっかり関わりながら信頼関係を構築し、心の変化に寄り添っていく。必要に応じて、SCやSSWほか関係機関と連携して支援を行っていく。
○今年度図書館教育の実践発表を行い、タブレット端末の工夫した活用ができつつある。指導力の向上も見られるので、さらにICTも活用し、授業づくりを工夫、実践していく。教師に「教わる」授業から児童自身が「学びとる」授業へと意識の転換を図り、新しい時代に必要となる資質・能力の習得を目指していく。
○家庭学習に関しても、タブレット端末を活用し、個々の到達度に応じた学習ができるようにし、個別最適化を目指す。
○市学力調査や全国学力調査の結果を受けて児童の学力を分析し、習得が不十分な内容の定着を図るとともに、事後の指導の工夫改善に努める。
○「あそうだ運動」は児童にほぼ定着し、行動にも繋げることができている。地域や家庭へも学校の取り組みの周知を更に図っていく。
○「麻生田小のくらし」については、随時見直しを行い、児童が自ら判断し、行動できる児童の育成を目指す。
○体力向上策として、体育の授業づくりはもちろんのこと、縦割り班活動や全校体育等の工夫により、楽しみながら体力向上に繋がる活動に取り組む。特に、本校の課題である持久力と走力向上を図っていく。また、新たにサッカー教室（民間）が始まることになり、体力向上に繋がるものと期待している。

学校関係者評価